

活 動 報 告

日本語研修コース

深見兼孝

[修了者]

第48期生名簿（2009年4月～2009年9月）[6名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Mak Lee Ming	マク	マレーシア	微生物学	広島大学
Masisi Kabo	カボ	ボツアナ	食品化学	広島大学
Yermekov, Talgat Zhomartovich	タルガット	カザフスタン	医学	広島大学
Naychov, Zheko Dimitrov	ジェコ	ブルガリア	医学	広島大学
Tran, Bich Thi Ngoc	ビク	ベトナム	教育管理	広島大学
Siti Kudnie Sahari	シテイ	マレーシア	量子半導体工学	広島大学

[修了者]

第49期生名簿（2009年10月～2010年3月）[15名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Tang Zhenfu	タン	中国	比較教育学	広島大学
Magaspar Chedilyn Sager	チェディリン	フィリピン	美術教育	広島大学
Pilatan Lamberto Jr. Sevileno	ランベルト	フィリピン	社会科教育	広島大学
Loria Rosylin Salalima	ロシリン	フィリピン	物理教育	広島大学
Pasamonte Faye Genevieve Patriarca	フェイ	フィリピン	物理教育	広島大学
Fernandez Lyle Espiritu	ライル	フィリピン	学校運営	広島大学
Li Yan	リ	中国	教育政策・比較教育学	広島大学
Ricardo Filipe Custodio Batista	リカルド	ポルトガル	考古地震学	広島大学
馬玉宝	バ	中国	保健学	広島大学
尹春麗	イン	中国	食糧資源経済学	広島大学
周袁	シュウ	中国	工学	広島大学
Paramastri Arintawati	アリンタワティ	インドネシア	眼科学	広島大学
裴力劍	ペイ	中国	電子システム	広島大学
于娜	ヨナ	中国	英語史・英語文体論	広島大学
段曉宇	ダン	中国	工学	広島大学

講師一覧

第 48 期 (2009 年 4 月～2009 年 9 月)

専任 浮田三郎 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 石井敬子 今石正人 後藤美知子 佐藤道雄

[専門用語解説]

大塚豊 (教育学研究科) 加藤範久 (生物圏科学研究科) 栗栖薫 (医歯薬学総合研究科)
末田泰二郎 (医歯薬学総合研究科) 中野宏幸 (生物圏科学研究科) 宮崎誠一 (先端物質科学研究科)

第 49 期 (2009 年 10 月～2010 年 3 月)

専任 浮田三郎 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 石井敬子 今石正人 後藤美知子 佐藤道雄

[専門用語解説]

浦辺幸夫 (保健学研究科) 大塚豊 (教育学研究科) 奥村晃史 (文学研究科)
木内良明 (医歯薬学総合研究科) 吉川公磨 (先端物質科学研究科) 小原友行 (教育学研究科)
地村彰之 (文学研究科) 蔦岡孝則 (教育学研究科) 中村和世 (教育学研究科)
長松正康 (教育学研究科) 前原俊信 (教育学研究科) 松井猛 (工学研究科)
宮崎誠一 (先端物質科学研究科) 矢野泉 (生物圏科学研究科)

第 48 期（2009 年 4 月～2009 年 9 月）予定表

期日	行事／試験等	見学(総合演習)	備考
4/6-4/10	4/7(火)13:00オリエンテーション (K308) 4/8(水) 11:00 開講式(教育学部第3・4会議室)		4/8(水) 11:30ホストファミリー案内(K308)
4/13-4/17			
4/20-4/24		4/24(金) 広島市	4/24(金) 17:30ホストファミリー 対面式
4/27-5/1			4/29(水)昭和の日(祝日)
5/4-5/8			5/3(日)憲法記念日(祝日)・5/4 (月)みどりの日(祝日)・5/5(火) こどもの日(祝日)・5/6(火)振り替 え休日
5/11-5/15			
5/18-5/22		5/22(金) 宮島	
5/25-5/29			
6/1-6/5	6/4(木)中間試験・専門用語解説開 始		
6/8-6/12			
6/15-6/19			
6/22-6/26			
6/29-7/3		7/3(金) マツダ	
7/6-7/10			
7/13-7/17			
7/20-7/24			7/20(月)海の日(祝日)
7/27-7/31	7/30(木)期末試験 7/31(金)特別講義		
8/3-8/31	夏休み		
9/1-9/4	9/1(火)-9/4(金)特別講義		
9/7	9/7(月)13:30修了式・研修成果発 表会(教育学部第3・4会議室)		

第49期(2009年10月～2010年3月)予定表

期日	行事/試験等	見学(総合演習)	備考
10/5-10/9	10/6(火) 11:00コースオリエンテーション (K308) 10/7(水) 11:00 開講式(教育学部第3・4会議室)		10/7(水) 11:30ホストファミリー案内(K308) 10/9(金) 16:20 全学オリエンテーション (K102, K201)
10/12-10/16			10/12(月)体育の日(祝日)
10/19-10/23		10/23(金) 広島市	10/22(木) 14:35図書館オリエンテーション 10/23(金) 17:00ホストファミリー対面式
10/26-10/30			10/29(木) 14:35図書館オリエンテーション
11/2-11/6			11/3(火)文化の日(祝日)
11/9-11/13	11/12(木)「専門用語解説」開始 (～1/21)	11/13(金) 宮島	
11/16-11/20			
11/23-11/27			11/23(月)勤労感謝の日(祝日)
11/30-12/4	12/3(木)中間試験		
12/7-12/11			
12/14-12/18			
12/21-12/23			12/23(水)天皇誕生日(祝日)
12/24-1/7	冬休み		1/1(金)元日(祝日)
1/8			
1/11-1/15			1/11(月)成人の日(祝日)
1/18-1/22		1/22(金) マツダ	
1/25-1/29			
2/1-2/5			
2/8-2/12			2/11(木)建国記念の日(祝日)
2/15-2/19	2/18(木)期末試験		
2/22-2/26	2/22(月)～26(金)特別講義		
3/1	3/1(月) 13:30修了式(教育学部第3・4会議室) 14:00成果発表会(“)		

日本語教育部門：日本語・日本事情 (2009年4月～2010年3月)

田 村 泰 男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留 学生のための授業で ある。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅠC	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡC	1・1	2	2	
総合日本語中級ⅠA	1	2		
総合日本語中級ⅠB	1	2		
総合日本語中級ⅠC	1	2		
総合日本語中級ⅠD	1		2	
総合日本語中級ⅠE	1		2	
総合日本語中級ⅠF	1		2	
総合日本語中級ⅡA	1	2		
総合日本語中級ⅡB	1	2		
総合日本語中級ⅡC	1	2		
総合日本語中級ⅡD	1		2	
総合日本語中級ⅡE	1		2	
総合日本語中級ⅡF	1		2	

日本語聴解特別演習 A	1	2	
日本語聴解特別演習 B	1		2
日本語分析特別演習 A	1	2	
日本語分析特別演習 B	1		2
日本語表現特別演習 A	1	2	
日本語表現特別演習 B	1		2
日本語古文特別演習 B	1	2	
日本語古文特別演習 B	1		2
日本語語彙特別演習 A	1	2	
日本語語彙特別演習 B	1		2
映像日本語特別演習 A	1	2	
映像日本語特別演習 B	1		2
日本の社会・文化 A	1	2	
日本の社会・文化 B	1		2
日本語・日本文化特別研究 I A	4		4
日本語・日本文化特別研究 I B	4		4
日本語・日本文化特別研究 I C	4		4
日本語・日本文化特別研究 II A	4	4	
日本語・日本文化特別研究 II B	4	4	
日本語・日本文化特別研究 II C	4	4	

・霞キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留 学生のための授業で ある。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル 1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅠC
担当教官	石原 淳也・深見 兼孝・多和田 眞一郎
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル 2

授業科目	総合日本語初級ⅡA・ⅡB・ⅡC
担当教官	田村 泰男・中川 正弘・下村 真理子
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・ レベル 3

授業科目	総合日本語中級 I A・I B
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 本授業では次のトピックを扱う： クラスメート、手紙、誕生日、日曜日、結婚式、お花見、アルバイト、家族、宇宙、留学生の生活、小旅行、犬好き、風呂屋、東京での生活、曜日、正月、花火、体育の日、かまくら、すもう、駅の売店、日本語のあいまいさ、ロボット、温泉と火山
テキスト	「日本語中級読解入門」（アルク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I C
担当教官	坂田 光美
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と試験および宿題による評価。

授業科目	総合日本語中級 I D・I E
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I F
担当教官	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃんたためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、世界の人口、牛井の作り方、ドライアイ、日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・ レベル 4

授業科目	総合日本語中級ⅡA・ⅡB
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」（アルク）
成績評価の方法	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡC
担当教官	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	本授業では、次のようなトピックスを扱う： 回転寿司、郵便局からのお知らせ、名前のない手紙、 成績と朝ごはん、地震に強いビル、いちばん上の子、結婚相手、 太鼓のひびき、睡眠不足、お菓子のおまけ、進化するロボット、 人類はメン類、日本を知らない日本人、よみがえった日本の技術 若い登山家、変化する就職活動、三年寝太郎、屋上の緑化、 英語力や資格は必要ですか、燃料電池自動車
テキスト	「毎日の聞き取り plus40 下」（凡人社）
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしなない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価の方法	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教官	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前にまず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

・レベル 5

授業科目	日本語聴解特別演習 A
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語聴解特別演習 B
担当教官	深見 兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語分析特別演習 A
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習 B
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習 A
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習 B
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語古文特別演習 A
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語古文特別演習 B
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語語彙特別演習 A
担当教官	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習 B
担当教官	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 疊語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習 A
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習 B
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・ 日本事情

授業科目	日本の社会・文化 A
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1.2. 若者のライフスタイルと職業意識 3.4. 日本における「中流階級文化」 5.6. ジェンダーフリー 7. 試験 8.9. 生命倫理 10.11.12. 現代家族の様相 13.14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の社会・文化 B
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

・ 特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義Ⅶ～Ⅻ 地域研修Ⅶ～Ⅻ 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

(霞キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級 I A
担当教官	山中 康子
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語初級 I B
担当教官	渡部 浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル 2

授業科目	総合日本語初級Ⅱ A
担当教官	渡部 浩見
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	<p>第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1)</p> <p>第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2)</p> <p>第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)</p>
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験

日本語教育部門：留学生関係科目 (2009年4月～2010年3月)

田 村 泰 男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
Elementary Japanese I A	2		2	広島大学短期 交換留学生のため の授業である。
Elementary Japanese I B	2		2	
Elementary Japanese I C	2		2	
Elementary Japanese I D	2		2	
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	
Intermediate Japanese I A	2		2	
Intermediate Japanese I B	2		2	
Intermediate Japanese I C	2		2	
Intermediate Japanese I D	2	2		
Intermediate Japanese I E	2	2		
Intermediate Japanese I F	2	2		
Intermediate Japanese II A	2		2	
Intermediate Japanese II B	2		2	
Intermediate Japanese II C	2		2	
Intermediate Japanese II D	2	2		
Intermediate Japanese II E	2	2		
Intermediate Japanese II F	2	2		

Advanced Japanese A (Listening)	2	2	
Advanced Japanese B (Listening)	2		2
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2	
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2
Advanced Japanese A (Expression)	2	2	
Advanced Japanese B (Expression)	2		2
Advanced Japanese A (Classical)	2	2	
Advanced Japanese B (Classical)	2		2
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2	
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2	
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2
Japanese Society and Culture A	2	2	
Japanese Society and Culture B	2		2

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル 1

授業科目	Elementary Japanese I A・I B・I C
担当教官	堀田 泰司・山中 康子・渡辺 久美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル 2

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教官	恒松 直美・松崎 寛
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級 II 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・ レベル 3

授業科目	Intermediate Japanese I A・I B
担当教官	石原 淳也
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教官	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、 震度3、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、 日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、 右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、 阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、 十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、 通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate Japanese I D・I E
担当教官	石原 淳也
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I F
担当教官	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴 合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、 道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、 砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、 新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、 留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」(凡人社)
成績評価の方法	出席と試験および宿題による評価。

・レベル 4

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教官	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしなない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教官	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教官	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」（アルク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教官	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」（凡人社）
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・レベル 5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese B (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 疊語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・ 日本事情

授業科目	Japanese Society and Culture A
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1.2. 若者のライフスタイルと職業意識 3.4. 日本における「中流階級文化」 5.6. ジェンダーフリー 7. 試験 8.9. 生命倫理 10.11.12. 現代家族の様相 13.14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Society and Culture B
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

第 24 期 (2008---2009)

日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、本留学生センターで受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、留学生センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営され、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教官のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教官と留学生センターにレポートを提出する。留学生センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

残念ながら、第 24 期は本留学生センターに学生の配置がなく、本年度は部局間協定に基づく教育学部受け入れのニュージーランド女子学生 1 名のみであったが、例年通りプログラムを実施した。

<特別講義等>

2008 年度 (第 24 期) 日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

2008 年度後期 (第 24 期前半) 日本語・日本文化研修プログラム (特別研究 I)

10.7 開講式 (留学生センター長室) 石原

オリエンテーション (センターK308) 中川

10.10	特別講義「日本語日本文化と IT」	中川
10.17	広島見学 1 (広島城・平和公園)	石原
10.24	特別講義「音声学」	石原
10.31	特別講義「現代日本語の語彙」	田村
11.7	広島ホームステイ協会対面	中川
11.21	特別講義「日本語と文体」	中川
11.28	宮島見学	石原
12.7	国際交流バスツアー (ミカン狩り)	中矢
1.23	福山見学	田村
1.30	特別講義「俳句入門」	浮田

2009 年度前期 (第 24 期後半) 日本語・日本文化研修プログラム (特別研究 II)

4.9	プレイスメントテスト 2	
4.16	オリエンテーション 2 (中川)	
4.23	特別講義「比較言語文化論の視点」(浮田)	
4.30	ゴールデンウィークのため休み	
5.7	研修レポート構想発表 (石原)	
5.14	特別講義「沖縄のことば」(多和田) 14:00-15:30	
5.21	サタケ見学 (中川)	
5.28	特別講義「日本の漢詩」(佐藤: 文学研究科)	
6.4	特別講義「日本の経済」(小松: 国際協力研究科)	
6.11	特別講義「日本社会とジェンダー」(恒松) * 4 コマ目	
6.18	特別講義「広島の方言」(高永: 文学研究科)	
6.25	呉市・下蒲刈島見学 (中川)	
7.2	特別講義「平和国家日本」(中園: 国際協力研究科)	

- 7.3 ホームステイ協会交流会（中川）
- 7.9 研修レポート中間発表（石原）

- 8.7-8 松江・出雲見学旅行（石原）

- 9.8 レポート発表会、修了式

第10期 平成21年度(2009年度) 広島大学日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつ、平成16年度2名、17年度5名、18年度4名、19年度、20年度は5名の受け入れであった。本年度も、当初、文科省からは5名の受け入れ打診があり、本学でも5名全ての受け入れを表明したが、のちに3名が入学を辞退した為、最終的には2名の受け入れとなった。

留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループ(国際交流委員会の下に設置され、同年8月「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会となる。)の発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた(平成12年度、13年度の経緯については多和田教授による「広島大学日韓理工系学部留学生事業発足前後」『広島大学留学生教育第6号』を参照。)が、法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されることとなり、本事業に対する留学生センターの関与はより大きくなってきている。

本年度は長らく同部会長をつとめた留学生センター多和田教授が退かれ、前副部会長である工学研究科の西田准教授が部会長に就任され、留学生センター委員、石原准教授が副部会長に就任した。

本事業において留学生センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
 2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
 3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言（センターの部会委員は予備教育期間中指導教員となる）
 4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定
 5. 見学引率
 6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
 7. その他謝金講師のサポート
 8. 予備教育講師謝金等経費の管理
 9. 学生チューターの指導
- 等の業務を行っている。

予備教育について

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を実施していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」を履修させることとなった。以前は、学生の日本語能力に合わせ、レベル 3, 4 を履修させていたが、本年度はレベル 4, 5 を履修させた。また、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、17 年度より、本予備教育生用に日本語会話、日本語作文を各 1 コマ開設することとした。

また、本年度は生物系の学科へ進学する可能性のある者がいないため、生物のクラスを開設せず、代わりに日本と韓国の文化的な違いについての理解を深めるために日韓文化論のクラスを開講するとともに、人文科学系の科目受講のための準備として、日本語読解のクラスを開講することとした。なお、本 21 年度における予備教育科目および週当たり時間数は以下の通りである。

09 年度日韓共同理工系学部留学生時間割

	月	火	水	木	金
1					
2		日本事情 L5 中矢	日本語読解 石原		日本語会話 坂田
3	日本語 L5 石原	数学 1 永井	化学 2 赤瀬	日本語 L5 田村	日韓対照文化論 坂田
4	日本語 L5 深見	物理 1 阿部	日本語 L5 浮田	日本語 L5 中川	日本語作文 坂田
5	物理 2 大磯		数学 2 山元	化学 1 下赤	

09 年度日韓共同理工系学部留学生行事予定

	期間	行事等	見学 (金曜)	備考
W0	10/4-10/10	5 渡日、6 開講式(13:00)、オリエンテーション、7、8 諸 手続	9 プレイスメントテスト (10:30) 全学留学生オリ(4:20)	
W1	10/11-10/17	12 体育の日 13 授業開始	16 広島城、平和公園見学	月なし
W2	10/18-10/24			
W3	10/25-10/31			
W4	11/1-11/7	3 文化の日 5 創立記念日 7 ホームカミングデイ		火木なし
W5	11/8-11/14			
W6	11/15-11/21			
W7	11/22-11/28	23 勤労感謝の日	27 宮島見学	月なし
W8	11/29-12/5			
W9	12/6-12/12			
W10	12/13-12/19	補講期間	18 マツダ見学	
W11	12/20-12/26	補講期間、23 天皇誕生日 24 木曜の授業、25 月曜の授 業		
		冬休み (12/26-1/6)		
W12	1/3-1/9	補講期間、7 月曜の授業		
W13	1/10-1/16	補講期間、11 成人の日		月なし
W14	1/17-1/23	専門科目終了		
W15	1/24-1/30			
W16	1/31-2/6			
W17	2/7-2/13	10 修了式 11 建国記念日		
		春休み (2/11-) 14 旧正月		

平成 21 年度 指導部門活動報告

中矢礼美（留学生センター・指導部門・准教授）

指導部門では平成 21 年度の活動計画をもとに、以下のような活動を実施した。

1. 指導・相談

1.1 オリエンテーション

- 前期は、日本語・英語による全学オリエンテーションを行った。また、留学生支援のための日本人学生チューターオリエンテーション、図書館オリエンテーション（図書館の支援）、国際交流会館オリエンテーション（留学生センター所属学生対象）、国際交流会館防災訓練（国際交流会館居住者対象）を行った（日程表は次項に記載）。しかし、毎年通訳をつけると間延びし、時間もかかるため、後期は、日本語のオリエンテーション会場は留学交流グループ甲田主査が行い、英語のオリエンテーションを別会場で中矢が行った。会場が 1 階と 2 階として、先輩留学生からの話を聞く際の移動を楽にした。
- 日本人国際交流ボランティアの充実を図るためにオリエンテーションを 3 回開催した。ボランティアの活用を量的・質的に高めるために、活動報告を求め、改善に努めたが、報告書は義務ではないため、5 件程度にとどまってしまった。国際交流ボランティアの参加率は年々減少してきており、次年度以降は、もみじでの呼びかけに一元化した方が効率的である。そして、1 度活動に参加した人のメールアドレスを活用して、人が集まらない時や連続性のある行事（Face to Face）については重点的に情報伝達するようにしたい。

1.2 相談

留学生の就学・生活に関する相談を行った。相談延べ件数は、以下のとおりである。

修学上の悩み（87 件）、進路の悩み（68 件）、経済上の悩み（67 件）、対人関係の悩み（36 件）、健康の悩み（11 件）、その他（47 件）、合計（316 件）。これらは、メール、電話、来談、アンケート、授業、交流会などを通じて受けた相談である。一人につき何度もあるいは複数の件で相談する場合も含めた総数である。また、留学生だけでなく、留学生を指導する教員、友人、チューターからの相談も多数あった。心理相談については、後述する（1.3 参照）。

以下、相談内容別に主要な問題とその対応、今後の課題について記述することとする。

修学上の悩み

- * 指導教員の進める研究プロジェクトや研究方法と自分の研究関心との違い
- * 修士論文や博士論文が進まないことに対する不安
- * 研究時間と生活時間のアンバランスの状況
- * 調査をめぐる問題：経済上の悩みと重なる部分も多いが、海外調査を強く勧める指導教員への対応の相談
- * 調査計画や質問紙調査に関する相談：文系に限ってのみ可能なことであるが、具体的な指導を求められることも多い。基本的なレポート・論文の書き方、先行研究の行い方、参考文献の書き方など、基本的な研究スキルが身につけておらず、それらに対す

る各分野での一貫した教育の提供の必要性がみてとれる。以前は、研究室の先輩後輩で引き継がれてきた指導体制の崩壊が留学生にも大きなダメージを与えているように思われる。

進路の悩み

- * 博士課程への進学、帰国、就職するかなどの選択
- * 授業料の支払いができないため除籍勧告を受けたが、諦めきれない

経済上の悩み

- * 奨学金や授業料免除を受けていない
- * アルバイトが見つからない
- * 調査研究のための費用が十分でない

対人関係の悩み

- * 研究室内での人間関係の不和、いじめ
- * 家庭内暴力
- * 指導教員に対する不信感あるいは、指導教員からの不信感が確立してしまうと、逃げ場所がなくなり、帰国を余儀なくされた。留学生の不正行為（論文の転用）に対する指導教員による厳しい叱責が多大な心理的負荷を与えてしまい、パニック障害になったために大学にいられなくなった。しかし、その状況に対して指導教員は「怠け」「不正な奨学金の取得」と見なしたため、「自主退学」を「強要」されるという状況になった。ここで問題であるのは、留学生の「自主退学」という名称である。国によっては、「退学」「除籍」の勧告を大学から出されない限り、自己責任として逆に厳しい状況におかれる。

健康の悩み

- * 持病
- * 病院の処方箋、治療への不信感
- * あらゆる薬に対する拒絶

その他

- * 病院付き添い
- * 同居人との揉め事と示談書作成による和解フォロー
- * 推薦書作成
- * 学位記の盗難：外務省、大使館、大学などへの報告・連絡・相談
- * 指導教員からの苦情・相談：留学生チューターへの苦情、留学生支援体制に対する不満、支援調査関与への不満

対応

- テクニカルサポートについては、さまざまな関係機関の協力を得て、適切な情報を提供するようにした。
- 多くの場合、相談してきた内容について直接解決に結びつくケースは少なく、考え方を变える、あるいは合理的な思考能力を身につけさせることが肝要となる。そもそも問題は、どの程度問題なのか、解決できない場合にはどのような選択肢が考えられるのか、行動認知療法を用いて対応を行なう。このような対応によって留学生に合理的思考能力を身につけさせなければ、また別の問題が発生する（問題を見つけだす）。
- 学内外の相談窓口について留学生に広く周知し、支援活動を行う際には適宜連携を図っ

た。

- 日本人学生に対する国際交流関係の相談・指導を行った。特に、留学を計画している学生や異文化間コミュニケーション能力を高めたい学生、あるいは留学生との間にトラブルがある学生への対応を行った。

1.3 心理相談（留学生心理相談員 小島奈々恵）

留学生が自由に相談できる環境を提供するため、東広島キャンパスおよび霞キャンパスにおいて、決められた日時に、決められた部屋で待機していた。結果、うつ症状と疑われる学習意欲の低下や不眠、家族問題、日本不適應、などに関する相談があった。いずれも、継続的に面接を行い、面接終了（中断）後にはフォローを行った。昨年度より実施している国際交流昼食会では、日本文化や日本語に関する留学生からの相談に加え、留学生との付き合い方に関する日本人学生からの相談にも対応した。本昼食会は、相談員によるサポートを受ける場であると共に、お互いを支えあうピア・サポートの場としても機能していた。同時に、留学生の状況把握にも役立っていた。

留学生との面接以外に、留学生の心理的問題で悩む教員に対してコンサルテーション、医療的ケアを必要とする留学生の通訳、相談メールの対応、なども行った。また、必要に応じてアンケートなどで明らかとなった心理的問題の対応も行った。

心理相談以外にも、留学生相談に関する案内の作成、支援調査、文章の英訳や和訳などを行った。現在、留学生を対象としたストレスマネジメントハンドブックを作成中である。

平成 21 年度 留学生心理相談内容

日時	内容	備考
6/22	学習意欲の低下・不眠（うつ症状の疑い）	
7/6	夫婦問題（パーソナリティ障害の疑い）	緊急
7/13	学習意欲の低下・不眠	
7/15	夫婦問題	
7/27	学習意欲の低下・不眠	
7/29	夫婦問題	
8/11	夫婦問題	
8/17	学習意欲の低下・不眠	連絡なし
8/19	夫婦問題	キャンセル
9/1	通訳	
9/7	日本不適應（ホームシック）	
9/9	夫婦問題	キャンセル
9/14	通訳	

上記のような継続面接に加え、面接終了（中断）後にはフォローを行った。また、留学

生の心理的問題で悩む教員に対してコンサルテーション、教員の紹介で来談した留学生に関して教員へのフォロー、メールでの相談に対する対応、などを適宜行った。

1.4 日本語日本文化研修生、日本語研修生および日韓理工系学生チューター

上記3種の留学生センター所属の学生について、チューターを国際交流ボランティアから探し、マッチングを行い、チューターオリエンテーションで支援業務説明を行なった。しかし、近年チューターを志願する学生は激減しており、マッチングまでに1ヶ月を要する。また、マッチング後のオリエンテーションにも1度に集まることができず、個別に説明、対応、問題や不安への対応に非常に多くの時間を費やした。

2. 国際教育交流活動

2.1 Face to Face プロジェクト（国際交流会）

●交流会の開催の背景

本学の留学生数はすでに1000人を上回っている。人数の増加は、留学生支援システムにおいても問題を生じさせつつある。これまで留学生センターでは、日本語教育、相談窓口の設置、国際交流ボランティア制度を通じて、留学生の学習生活支援および交流支援を行ってきた。また、意欲ある学生によっても実践され、学生同士のつながり少しずつは広がってきている。しかし、毎学期の支援調査の自由記述では「大学主催の交流会のなさ」「定期的で学術的な広い交流機会の不足」に対する不満の声がよせられている。そこで、今回留学生センターと日本人学生および留学生が協働して定期的な交流の場をつくることとした。

本学が国際化していくことを鑑みて、日本人学生と留学生が意見交換を行い、アカデミックな議論を通じて交流の輪を広げ学び合う活動を実践していくことは非常に意義があると考えられる。

●目的

広島大学に在籍する留学生と日本人が本国で受けた教育やマスメディアを通じて培われた固有の見方・考え方や価値判断などについて話し合い、相互理解を深め、異文化間の相互不干渉あるいは摩擦の解決に向けた方策を探る。

●概要

主催：広島大学留学生センター

日時：原則、毎月1回開催（2009年12月より）

場所：学生会館

対象：広島大学に在籍する日本人学生、留学生、教職員

定員：30名程度

使用言語：日本語と英語（バイリンガルによる議論、発表）

テーマ：メディアリテラシー、戦争と平和、移民問題、多文化共生社会など

●方法

①各国の状況報告（各10分×3名＝30分）

発表者が小テーマに沿って、出身国で起こった（または現在起こっている）政治社会現象について発表する。発表者は毎回3人まで、持ち時間は一人10分とする。

②グループディスカッション（30～40分）

参加者は、3つのワーキンググループに分かれ、発表を踏まえてそれぞれの国における情報（コントロール）や世論を紹介し、比較しながら、各国の情勢伝達過程における諸問題や学生自身が実際に経験する異文化間接触の特徴と課題、その改善方法について議論する。ディスカッションを通じて得られた知見を模造紙1枚にまとめる。

③プレゼンテーション（各5分×3グループ＝15分）

各グループは議論のプロセスと結果について発表する。

●内容

今年度は、ランニング企画として3回に分けて行った。各回後に簡単なペーパーを作成し、活動実績を残すようしており、詳しくは報告書『2009年度 Face to Face 報告書』にて報告する。

●第1回（2009年12月）

発表者：アフガニスタン、チェコ

テーマ：宗教と生活。平和な分離。

●第2回（2010年1月）

発表者：アメリカ、ロシア

テーマ：移民。民族問題

●第3回（2010年2月）

発表者：サウジアラビア

テーマ：宗教と生活

○参加者の募集方法

- 発表者に関しては事前に発表準備をしてもらう必要があるため、中矢もしくは斉藤が各小テーマに沿った適任者を選び、依頼。
- 留学生参加者は、当センターから広報で呼び掛け。
- 日本人参加者は、国際交流ボランティアのメーリングリストを活用した広報。
- 参加者の中で、企画運営協力者を募り、①プロジェクトの企画・進行、②当日ボランティア（通訳、ファシリテーション）の役割を担ってもらう。ファシリテーターについては、事前に中矢と斉藤が研修を行なった。

○今後の展開

今年度開催する全3回の企画は、あくまでもランニング企画であった。今年度の課題と反省を活かし、来年度以降、年間を通じたプロジェクトとして企画運営していく。また議論とプレゼンテーションの内容については、年度終わりに報告書として製本し、留学生センターHPに掲載して、全学に活動の紹介を行なう。

2.2 県教育委員会 グローバルに活躍する広島っ子育成事業

昨年に引き続き、県教育委員会による国際交流体験事業のコーディネーター兼講師を務めると共に、留学生もファシリテーターとして参加させることで、地域に貢献でき、また留学生に地域の国際交流を通じた日本社会理解を深めさせることができた。事業の目的は、以下の三点である。

- 国際社会を舞台に活躍することをめざす意欲あふれる「広島っ子」
- 他国の人々と外国語で積極的に意思疎通を図ることができる「広島っ子」
- 自国と国際社会を深く理解し自分の果たす役割を考える「広島っ子」

この3点を達成するために以下のようなスケジュールでワークショップや異文化理解講座、日本文化理解、平和な社会構築に向けた調査と平和活動宣言を行なった。

<国際ナショナル・セミナー：年間7日>

回	実施日	内容 (◇午後・◆夜)	
1	7月18日 (土)	◇ セミナー開講式 (10分) ◇ オリエンテーション スケジュールの確認 (10分：スタッフ) ◇ 講演 「グローバル・リテラシー」 (80分：中矢先生) ・広島っ子とは、 ・国際社会に生きる、活躍 できる広島人とは、	◇ ワークショップ 「グローバル・リテラシーの身に付け方」(90分：中 矢先生) ◇ グループ・オリエンテーション (90分) ・プログラムのねらいに対する意識付け(エッセイ： なぜ参加したのか、何を学びたいかなど、自分と プログラムの関係を明らかにする。) ・チーム作り(スピーチ、ルール作り、役割分担、 グループの目標作り)
2	8月2日 (日)	◇ 入所式、オリエンテーシ ョン	◇ 企画会議1 (60分：スピーチ、テーマ検討) ◇ 異文化理解ワークショップ (120分：中矢先生) ◆ VTR視聴(60分：感想、改善案について協議)
	8月3日 (月)	◇ 振り返り (30分) ◇ 企画会議2 (150分：江田島高校) ・情報収集、内容について 討議)	◇ 企画会議3 (120分：江田島高校) ・情報収集、内容について討議 ◇ プレゼンテーション・ピアアセスメント (90 分：江田島高校) ◆ レクリエーション
	8月4日 (火)	◇ 振り返り (30分) ◇ 企画会議4 ・プレゼンテーション内容 についての討議	◇ 日本の伝統文化(茶道体験) (180分) ◆ プレゼンテーション (60分)
	8月5日 (水)	◇ 振り返り (30分) ◇ 国際貢献、国際協力に 関する講演 (120分)	◇ 企画会議5 (60分) ・テレビ会議の骨子づくり(内容検討、スケジュール、 役割分担) ◇ 退所式
6	10月24日 (土)	◇ 企画会議6 (120分) ・テレビ会議準備(8つ のグループ分け：発表 チームと質問チーム)	◇ 海外の高校生とのテレビ会議
7	11月21日 (土)	◇ 企画会議7 (フォーラ ムの内容作りなど)	◇ 企画会議8 (フォーラムのリハーサルなど)

2 インターナショナル・ユース・デイ：年間1日

回	日時	午前	午後
8	12月13日 (日)	◇ 企画会議9 (フォーラムのリハーサル)	◇ 国際協力・国際貢献等に関する フォーラムの実施

2.3 国際交流昼食会

毎週月曜日に教員室を使用して、1 時間ほど昼休憩に学内の国際交流の促進を図った。昨年は、毎回留学生、日本人学生 5 名程度ずつの参加があり、交流の場もひろげられていった。この昼食会に参加することで、見つけられなかった会話パートナーが見つかったり、心理相談員と面識ができて相談しやすくなったり、日本人学生と留学生のネットワークも広がった。徐々に参加人数が減少したが、それはこの昼食会にこなくてもよい居場所ができたと思われる。居場所を作るきっかけ作りの機能を果たすためには、継続的に、特に前期後期の前半は国際交流昼食会の意義は大きい。

2.4 留学生地域国際交流ボランティア

留学生は、学内にかぎらず学外における国際交流会に参加することは、非常に日本社会の理解と適応のために有効な活動である。そのため、毎年オリエンテーションおよび留学生支援調査の際に申込用紙を配布して、データベースを作成し、メールを通して地域の主に公共団体の国際教育交流活動への派遣を行ってきた。そこでのメリットは、自分の国や文化について日本人に対して発表する事を通じた比較の視点を持った認識力の向上と異文化理解能力の向上である。

このボランティア制度で一番多くの留学生に利益があったのは、地域の学校における国際交流活動への参加であった（のべ 94 人）。小中学校における国際理解教育授業への参加は、東広島市教育委員会と協力して実施した。また、東広島市外や高等学校、公民館などでの国際交流活動への参加についても紹介・調整を行った。

3. 調査研究・情報発信

- 留学生が日本の文化・社会に適応できるように、留学生が直面する問題について制度・法律の側面からの研究を行い、支援活動に役立てた。具体的には、留学生を対象とした国際交流ボランティア活動オリエンテーション、SD の実施など。
- 留学生支援調査を前期後期 1 回ずつ行い、その成果を教職員および留学生に公表・報告することで、現状の把握と情報の共有を図った（研究論文として同誌に掲載）。また、日々の相談活動において、他の留学生の状況と比較しながら、冷静に状況分析と対処行動が選択できるようにした。
- 留学生 HP により多くの情報を掲載し、留学生が情報収集しやすいように改善した。

2009 年度広島大学留学生支援調査「満足度指標」の結果報告

2009 年度前期および後期の支援調査結果は別項（本紀要内）にて詳述する。

2009 年前期留学生支援調査 自由記述結果報告

（回答者が特定されるものや御礼など 13 名分を省いている）

言語問題	
1	日本語の授業がすくなくいです。
2	Thank you very much, I so happy to see this questionnaire for the first time, because I (and other Int. students) am so worried about the future of my study because all the classes and everything is in Japanese and I can't understand. I am working for the patients (I am a doctor) so it's very important to know and improve my knowledge but here is not good for Int. students because everything is in Japanese.
3	日本のマナーや文化などに関する授業・座談会などがあつたら、助かります。日本のマナー多いから、よく分かりません。例えば、年上の方との付き合いや教授たちとのやりとり・電話用語、手紙・年賀状の書き方など。

4	I've studied Japanese for 2 years. But I don't speak or write Japanese very well. Although I've just entered the Uni. 3 months, I would like to have a teacher who can support me much more about my studying. I wonder that there are any programs like my thinking. I intend to discuss with Mr. Saburo about my thought. Could I meet him one time? I would like to research about Yamato Kuroneco's system. How can they organize the system well? I think that the University allows me to have one teacher to follow him to study, it'll really help me a lot... Please!!!
5	The Japanese classes are good. However the peace related classes that I took were frankly a waste of time in my opinion. They only seemed to take time away from me that I think could have been better spent studying Japanese. Japanese being the reason I'm here.
6	Lecture is most important and educators explain important point during the lecture, but international students can not get anything from lecture, because the lecture is by Japanese language and international students don't know about it. I took more classes last year and I satisfied with a few classes because those professors explained to all students by two languages English and Japanese as respected professor Nakaya and professor Fujimura. I have a class, Educational Administration and Management this semester, but I can not get anything from a lecture, because it is by Japanese language.
7	Very big difference in quality of Japanese language classes and non-language classes. The language classes are very good. The non-language classes feel like lower level High school classes and seem totally pointless at times. More language classes a week would be a great idea since most people are here for that reason, and besides classes there is not much to do in Saijo.
8	There are some errors in translation into English. Would you please revise the translation. Thanks for interest.
9	If the University is interested in accepting international students and encourage them to study without the need of Japanese, why are all the classes in that language. Why is all the material in the university in Japanese? Why are supervisors allowed to forbid their students to learn Japanese.
10	I don't have nothing special. However, I have opinions about classes by teaching in English that more useful for us. Lately, more or more English classes are become greater than last time. We should keep it you advance study in future.
11	International students get a tutor for only one year. So, for easily getting information, more information can be in English format. There should be more cross-cultural gathering to gain information about others.
12	This is a good attempt to make a database about the views of international students, it means that the Japan government is caring about international students. I appreciate it. So English language should be encouraged among Japanese people, to make it more effective and collaborative. Thanks.
13	I am looking for a conversation partner in Japanese. I already sent this application to Miss Nakaya for a long time. Until now, I have not met any suitable candidate. So, I hope my problem should be solved in recently. BTW, I sent my application by e-mail.
住居問題	
14	国際交流会館に入居できない留学生が大勢いる。たとえ入居できても半年間という中途半端なことは逆にこまる。一方、下宿に必要な家電、家具を調達するのも大変である。提言ですが、会館入居の費用を一般相場にあげ、あまった部屋を入居できない留学生の下宿生活へのサポートに資するのはみんなの満足度を高めるのでしょうか。（会館入居期間は限定せず）
15	日本に来て、間もなく6年になりました。今年初めに両親が私の留学生生活を見てみたいと言って、申し込もうと思ったが、残念ながら身元保証人（原則として、日本人で、学生の場合は指導教官に頼む）が居なくて、いまだに実現できません。住宅を借りるときみたいに、大学が保障してくれる制度があれば、便利だと思います。（勝手な考えで、すみません。。。）
就職活動問題	
16	How can we engage in job search and be successful when almost everything is done in Japanese.
17	I wish to do job after finish my degree. If possible give me some sites or some English books to find job. I am doing research on Environmental pollution related work. Thank you so much.
18	日本の就活が他の国とは大きく異なる所が多く、企業の考え方も最初に分からなかった。私は2010年卒の就活を目指して、2009年10月から情報の収集とセミナー・説明会など色々やったんですが、日本社会の価値観や、企業がどのように学生（留学生）評価するかを、半年経ってやっと分かったような気がする。その上、研生の研究活動が忙しく、就職時期との衝突が大きかったです。特に、大阪・東京に頻繁に行く時間と金銭上の余裕が、どうしても日本人学生とは比べられない所があります。私は、今年の6月から自らの原因で就活をやめました。留学生のための就活支援がより留学生の立場から考えたらいいなと思いました。
留学生サポート・友人関係・国際交流関係	
19	Personally, I think that Japanese students are afraid to speak or hang out with foreigners whom cannot speak Japanese. So that, it is difficult to share mutual understanding and exchange my culture to them, even someone know or have experience to visit my country.
20	1. I want to know how to join the student club; 2. I want more information about how to search job and the company.
21	- The number of activities for students are limited in school. - Sometimes it is difficult to search or find student activities information. - There is small chance to have friend or get into Japanese students circle.

22	私は積極的ではないので自らの参加などがうまくできなかつたです。でも頼まれたらほとんど参加します。それが私だけではなく留学生みんながそうでないかと思ひます。
23	Introduce us to the international activities out and in campus through our emails, on time to plan for plan for them.
24	日本にきて七ヶ月になりましたが、日本人の友達があまりできない状態です。今までの友達はほとんど中国人ですが、同じような状態の人が多そうです。どうやって日本人の友達を作ったらいひですか？
25	日本に来て、できるだけ多くの人々とコミュニケーションし、多くの国際活動に参加し、ゆたかな留学生生活をおくりたいです。
26	国際交流活動には十分興味を持っています、例えば、地域の行事とかに参加したいんですが、情報がよく知らなくて、参加したくても、なかなか難しいです。もっと紹介とか、宣伝をしていただければと思います。
27	日本人の友達とどう付き合えばいいですか、時々困ります。
28	他の学部日本人と交流する機会が少ないです。
29	Communication, interaction, activities between students / staff at Kasumi campus outside one's own department is extremely less. The only opportunity is the International Tea time which is a 2 hours program that happens twice a year. It is worth praising Hiroshima University can spend some resources to develop online community of present & past students for fruitful interactions. PS: I appreciate this annual evaluation you sending us the results ; but how does it compare with satisfactory index in other universities?
30	学部生には留学生あつかいはないみたいですね。もっと留学生の活動も知りたひです。
31	もっと多くの留学生向きの活動があつたら、いいと思ひます。懇親会や交流会だけでなく、ほかの活動(例えば、日帰り旅行とか、合唱とか、ダンスパーティーとか)に参加したいと思ひます。
32	マネジメント専攻の私たちのキャンパスは新しいキャンパスとかなり距離がある以上、サークルとか、国際活動とかの機会はほとんどありません。いろいろ参加したいですが、いつか、どこに、どんな活動があるという情報はどういふふうに入力するのでしょうか。いつもお世話になっております。ありがとうございます。
33	Another opinion is to arrange different cultural program for national and internal students. Thanks.
34	留学生と地元の学生さんとの交流活動をもっとしていただければありがたいと思ひます。
35	国際交流活動について、外国人留学生として日本人学生との交流を進める必要があると思ひます。
36	I think the relationship between international (foreign) and Japanese students should be enhanced. At first, I think language is the main problem but now it seems to me that open-minded personality and an understanding in a cultural / national difference in a positive way are much more important. There should be an activity or a class to impart this information to both foreign and Japanese students so that we can live and enjoy our campus life together.
情報要求 (その他)	
37	私は今短期交換留学プログラム (HUSA) で広島大学に在籍して勉強していますが、これからは研究生として広島大学の大学院に入りたいと思ひます。今ちょっとうかがいたいことがあります、毎年広大の留学生の中、国費留学生はどれぐらいですか？申し込んだら、どこでこれについての情報を収集できますか？
38	外国人は資格証の取り方[??]について聞きたいです。
経済 (授業料・奨学金・アルバイト)	
39	授業料を安くしてほしい！！
40	I'm a private student trying to manage job from the very beginning but could not manage. Only last two months I was in job. And now jobless. I have ??? into interview and this have taken my ??? but no response still now. Although I have awarded JASSO scholarship but it will continue only one year and amount is also very less.
41	I would like to teach language (Bangla) on I need a job. I need some suggestion. My e-mail address: m086410@hiroshima-u.ac.jp
宗教関係要求	
42	As far as I know, in Hiroshima Univ. there are hundreds of Moslem students every years. Can Hiroshima Univ. offer a certain place to conduct a daily praying activity? Arigato gozaimasu.
43	1. The number of Muslim students at Hiroshima University is more than 250 persons from many countries. Since, they need a place for praying together 5 times a day, especially once a week at Friday 12 pm, them I hope that Hiroshima University provide it.
キャンパス問題	
44	法学部の喫煙域は入り口に近すぎて、殆ど毎回出入りしているとき二次喫煙を余儀なくされる。
45	2. There is no vending machine at IDEC.
46	1. 本部に体育館、プールなどの施設があるから、活動をそちら場合があります。東千田キャンパスに教室以外学生交流や娯楽???の施設が少ないです。2. 日本語の授業、日本語研修、日本語で論文を書くなどの活動や勉強会がありますが本部の方が多ひです、東千田キャンパスが少ないです。3. 本部ではない留学生が孤独に勉強して生活して、あまり国立大学の恩恵を受けていない感がありますが。
47	霞キャンパスでは、留学生のための活動や組織は私の知る限り、ないです。もしあつたら、ぜひお知らせしてください。毎日実験ばかりなので、話を聞いてくれる友達をみつきたいです。

48	It seems like Kasumi Campus is very much isolated to rest of the faculties in Saijo Campus. As an international students, we have requested for an advanced level of Japanese language at Kasumi Campus but all in vain. Since most of the seminars and lectures are conducted in Japanese language, we should be provided some assistance in Jap language – I mean some advance level course. Top of the most of ??? info in Hiroshima University home page is in Japanese so that we international students are finding it difficult to access to the various important issues. It would be better if Hiroshima University homepage is more internationalized in terms of language friendly for international students.
住居問題	
49	国際交流会館に入居できない留学生がおおぜいいる。たとえ入居できても半年間という中途半端なことは逆にこまる。一方、下宿に必要な家電、家具を調達、???するのも大変である。提言ですが、会館入居の費用を一般相場にあげ、あまった???を入居できない留学生の下宿生活へのサポートに資するのはみんなの満足度を高めるのでしょうか。(会館入居期間は限定せず)
50	日本に来て、間もなく6年になりました。今年初めに両親が私の留学生生活を見てみたいと言って、申し込もうと思ったが、残念ながら身元保証人(原則として、日本人で、学生の場合は指導教官に頼む)が居なくて、いまだに実現できません。住宅を借りるときみたいに、大学が保障してくれる制度があれば、便利だと思います。(勝手な考えで、すみません。。。)
51	How can we engage in job search and be successful when almost everything is done in Japanese.
52	I wish to do job after finish my degree. If possible give me some sites or some English books to find job. I am doing research on Environmental pollution related work. Thank you so much.
53	日本の就活が他の国とは大きく異なる所が多く、企業の考え方も最初に分からなかった。私は2010年卒の就活を目指して、2009年10月から情報の収集とセミナー・説明会など色々やりましたが、日本社会の価値観や、企業がどのように学生(留学生)評価[??]するかを、半年経ってやっと分かったような気がする。その上、研生の研究活動が???しく、就職時期との衝突が大きかったです。特に、大阪・東京に頻繁に行く時間と金銭上の余裕が、どうしても日本人学生とは比べられない所があります。私は、今年の6月から自らの原因で就活をやめました。留学生のための就活支援がより留学生の立場から考えたらいいなと思いました。
54	The contents of the courses at IDEC seem to be broad, large in scale.
55	In events like Yukata Matsuri and Daigaku Matsuri, foreign students should be given preference to put up stalls about their country's food. Specific number of quota should be allocated for international students' stall.
56	チューターの活動・助言の積極的行動が必要だと思います。
57	バスも???くないので交通が不便です。

2009年度後期 留学生支援調査 自由意見
(個人が特定される意見や感謝文など9名のコメントは省いている)

1	就職についてもっと多い情報が知りたいんですけど、留学生の就活に応援していただきたいです。
2	送られるしりょうが多い。奨学金(外からの)書類をふやしてください。
4	経済的な困難がある学生をしっかりと確認していただいて、助けてくださいますようお願い申し上げます。
6	留学生たちと広島大学の日本人の学生たちの文化・体育活動を行ってもいいと思います。
7	Do you really care about this survey. I hope your target is not only to get some statistical numbers. Last year , I wanna get some help from you, but 1 year passed , nothing happened.
8	留学生同士のネットワークを作ってほしい。留学生向けのアルバイト(語学教師)を紹介してほしい。
10	My tutor Mr. Masachika Matsuo, my advisor Dr. Otsuka Yutaka and my lab mates are a great help. I learn a lot about Japan from them and international lunch, International office (student center) staff is also great! We need a bigger room and advertising to attract more people. Email list for international students (re: events or updates) would be a great help!
11	東千田 Campus で日本語教室を設立してもらいたい。
12	企業で就職する体験のような活動がほしい。
13	What is INU double degree? Taking such degree will affect my current study or not?
14	It is better not only the case of developed countries as shown but also of developing countries and compare those and also give idea how to work and put things in developing countries.
15	留学生に対して奨学金はどんな条件で決めますかと聞きたいです。私は中国の農村から去年10月に来日でした。大学は中国での重点大学です。広島大学に来てから、寮と国際会館など全部だめになりました。入学金も全額と授業料半額になりました。今年経済不景気で私と一緒に来た人たちは全部奨学金貰いました。私は各費用のためにいつも徹夜でアルバイトしなければならぬ。そうすると、成績も悪くなりました。今の私にとって悪循環になっている状況です。すごく悩んでいます。先生の意見を?りたいです。よろしく願いいたします。
16	ホームステイとかの地域の人との交流活動がおこなってほしいです。
17	来年卒業しますので、そろそろ就職活動がはじまります!でも、それについてぜんぜんわからないです。就活について助言してくれませんか?

18	日本語と英語を勉強したいですが、その授業が少ないです。
19	Nihongo no benkyou wa omoshiroi desu, demo kanji wa muzukashi. About my research, I am very happy to learn and study. Methodology of teaching in Japan. So I can share everything those which I learnt in Japan to the other teachers in my country.
20	奨学金の支給対象割合を高めてほしい。アルバイト情報の提供を充分にしてほしい。留学生就職活動への支援をほしい。現在の状況は東京での説明会が多い。不便！
21	Having been studying and living in Hiroshima University, it has guided me in the right track, especially in terms of research in education field. All of the Uni. Profs. And teaching staff are very nice and helpful. Honestly, I'm satisfied with my studies (specific field+Japanese) and my daily life here in Hiroshima University. Thank you for everything.
22	In terms of lectures, every lectures are conducted in Ja. Language, I normally attend to give the impression that I am phisically present. Other than that, I do not achieve or gain anything.
23	1. Minimum 1 yr paid internship after orin graduation period might help students to build up their professionalizm in their respective area. 2. Special wing can be formate to give assistance to int. students for job hunting. 3 University can suggests employer to recruit foreign graduate in graduates home country or other foreign branch of company.
24	このような質問が適切かもしれませんが、私にとっては非常に重要なことなのでお伺いします。実は、私今年10月大学院に入学しました。そして、入学料免除申請をしましたが、審査結果不許可となりました。両親からの仕送りもないし、バイトだけで生活を維持している私にとってはひどいことでございます。先輩たちに聞いてみたら大多数は半額免除ぐらいはできるといわれましたが、免除の基準は一体何ですか？10月入学は許可があまりできないという説もありますけれども、もしそうだったらその根拠は何ですか？難しい質問をしてもうしわけございませんがお願いいたします。
25	By decreasing Monbusho scholarship year after year it becomes harder and harder to live! Some people/students have enough time to do a part-time job but for some students who study all day long it's a bit hard to choose to work or study.
26	留学生センターというのは何であるかはよく分からない。ふだんあまりセンターとの接点がないからだろうと思いますが。なんとかして、センターを留学生にとって身近なものにしてほしいです。
27	研究を進めるため、生活面の支援が必要です。特にお金の面です。生活上の費用は節約でなんとなく足りる気がしますが、学校に払ういろいろな費用が私費留学生にとってとても大変です。学校には免？の申請が可能ですが、最近今年後期の結果が出ました。全額免？の人がほとんどいませんが、半額免？の人の数も減ってきましたような気がします。前よりきびしくなりました。それはなぜかわからない。経済の不況なのか、留学生の人数がふえたのか、これがみんな心配していることです。
28	奨学金制度をもっと完全させてほしい。奨学金を授与された人数は大変すくない。
29	There should have someone who can speak in English in coop-shop.

4. 大学の国際化に関するSDセミナー

2009年6月23日に、大学の国際化に関するSDセミナーとして第一回「留学生相談について」の開催を学術室国際規格連携グループから依頼されて行なった。配布資料は、以下のとおりである。

職員を対象としてのセミナーを行なう大学は非常に少ないようであるが、神戸大学などでは、新しい職員研修において「国際戦略」説明や留学生対応についての講演を行なっているようである。

(当日配布資料)

第1回「留学生相談について」

留学生センター准教授 中矢礼美

1. 留学生センターが受ける留学生相談の状況(平成20年度;教員1名、非常勤カウンセラー1名)

修学上の悩み	進路の悩み	経済上の悩み	対人関係の悩み	健康面の悩み	その他	合計
98件	78件	87件	24件	8件	58件	353件

* 延べ人数。メール相談含む。

- 修学上の悩みの大半は、指導教員との研究議論における齟齬、研究についての指導・助言（文系）。
- 進路の悩みは、専攻分野の将来性の不安、自分の研究能力不足不安、指導教官との不和、卒業後の就職などの悩み。
- 対人関係は、同国者との不和、家庭内問題、研究室での居場所問題、日本人学生との接点のなさ（あるいはいじめ）。
- その他は、病院関係問題、警察関係の問題、宿舎関係の相談、学生団体、郵便物関係の相談など。

2. 留学生相談事例

1) 「同国人」との摩擦

（相談）同国であっても、民族差別、政党の違い、「スパイ行為」への疑念などから「同国人」であっても話ができないと訴えてくる。それは、広大で授業を受ける中で「同国」のマジョリティが占める教室において発言ができないことに対する「怒り」、個人的な会話においても差別されていることを感じる人が多いことによる「怒り」である。

（解釈と対応）日本語・日本事情の受講が多く、研究室にも「同国」の留学生がいたら、「○人」とひとくくりで日本人教職員・学生によってみなされることが苦痛であるようだ。講義を通して「構造的暴力」について理解し、その暴力を克服し、改善していくための思考方法を身につけてもらう。「個人」を憎まず、構造的暴力が発生した背景、要因を社会学的に論理的に捉えて「対話」をすることで周囲の「同国」人とも友好関係を結べるように努力すること、遠慮すること、したたかに生きていくこと、将来に夢を託しつつ、現実を悲観しすぎないことを少しずつ、繰り返し伝える。もちろんマジョリティ側にも講義の中で、「一般的な政治問題・社会問題」として日本を事例として学習しながら、自国と自己を客観的にみる訓練を行う。

2) 指導教員とのトラブル

- 希望の研究室に入学できず、専門が違って勉強についていけない。しかし指導教員はとてもいい先生で、尊敬しており、迷惑をかけたくない。同時に疎ましく思われているのではないかと心配。
- 指導教員は、日本語ができる留学生だけをかわいがって、どうやら日本語で私を嘲笑しているようだ。
- 「上層階級」生まれの私の生い立ちを無視して、下等な労働をさせる。
- 私の国に偏見を持っており、人としての扱いをしてくれない。
- いつも院生室にやってきて、研究室に長くいる日本人学生をほめる。彼らは、パソコンでゲームをしている時間の方が長いのに。私は効率的に研究し、プライベートな時間は確保したい。
→本人の了解がとれた場合には、指導教員と話し合う。了解が得られない場合には、解決策を話し合う。

3) 研究室内のトラブル

- 日本人学生が、私の体臭について嫌がらせをいい、避ける。研究室に居場所がない。
- いつも質問ばかりするので、話しかけようとしたら何か理由をつけて逃げていく。パソコンのこと、研究のことなど、誰にも相談できない。チューターも既にもいない。
- 研究室はうるさくて集中できない。しかし、他に場所がない。
→問題発生の原因をできるだけ多く記述し、解決方策の選択肢を多く挙げて行き、一つ一つ

実践してみる。一時期研究室にいかないで、図書館など、学習環境を変えてみたり、指導教官や助教に相談したり、研究室の人に直接話してみたりするなどの自己努力をできるだけ行ってみる。その他、留学生ボランティア制度を利用して、支援者をつけることもある（希望者が少ないのが問題）。

4) 家族内のトラブル

- DV がひどく、友人が二人を警察に連れて行ってくれた。これ以上は一緒にいられない。
→即、宿舎を押さえて、対応準備。一晩中電話で安否の確認。
- 理系の研究室で、実験が多く、家族と過ごす時間が少ないため、配偶者がノイローゼ気味。子どもに対してもどうやら虐待をしているようだ。→大学内の「家族のための日本語講座」の紹介、学外活動の紹介、一時保育活用の説明など。

3. 留学生相談への対応ステップとポイント

- 1) 否定しない→「信じてもらっている」「親身になってくれる」と心を開いてもらう。
- 2) 聞いたことを適宜繰り返す→発言を他人の言葉で再確認することで客観的に自分を見る機会
- 3) 学生自身が考えている解決策を聞く→意外と自分が一番よい解決策を持っており、背中を押してもらいたい場合が多い。また自分自身のミスや誤解に話しながら気づくこともある。
- 4) 学生がもつ解決策の可能性を述べ、さらに他の解決策を幾つか提示する→何か一つに問題を抱える学生は、繰り返すことが多い。問題解決の方法を探し、最適な方法を決定するプロセスを学ぶ必要がある。
- 5) 解決までのプロセスを再確認して、メモを取らせる。→興奮状態で返さない。帰ったら不安な気持ちがぶり返す前に、すぐに行動に移ることができるようにする。
- 6) 解決できるという自信をもたせる→何事も「やれる気がしてきた！」とすることが必要。
- 7) 解決できない場合には、必ず戻ってくることを約束→解決できなくても、助けてくれる人がいるという安心感が必要。

4. 留学生相談から考える「広島大学の国際化」の課題

留学生を増やせば、国際化が成功するわけではない。学内の国際性の豊かさが、学生の勉強や将来に生きるようにするための環境・教育整備が必要。

- 多言語による効果的な情報伝達—留学生の不公平感（日本人と比較して、あるいは同じ留学生と比較して）に対応するには、データを見せる必要がある。
- 留学生・日本人への異文化理解教育は必須。留学生だから国際感覚があるとは限らない。日本人学生も留学生も同じく偏見も先入観を持っている、異文化コミュニケーショントレーニングが必要。日本人学生は、留学生というだけで「国際交流！」と喜ぶ学生もいれば、逆に煙たがる学生もいる。

<参考>

広島大学における 留学生に対する指導・相談体制（広大 HP より）

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/kyoiku/supportjoho/soudansitaitoki/soudan/index.html>

広島大学では、留学生のみなさんが快適で有意義な学生生活が送られるよう、以下のような体制を整えています。健康・修学・生活などの中で問題や悩みがある場合には、以下の機関を

利用してください。

- 所属部局の指導教員・留学生専門教育教員・留学生担当係
- 留学生センター <http://www.iie.hiroshima-u.ac.jp/index-e.html>
- 国際部留学交流グループ ryugaku-group@office.hiroshima-u.ac.jp
- 保健管理センター <http://home.hiroshima-u.ac.jp/health/>
- ハラスメント相談室 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/harass/index.html>
- キャリアセンター <http://www.hiroshima-u.ac.jp/kyaria/ryuugaku/index.html>

おわりに

平成 21 年度も、二人体制のところを一人で行わざるを得ない状況であったため、様々な活動に支障が生じた。相談業務では、時間に余裕がなく十分に答えられない状況もあった。オリエンテーションについても、バスオリエンテーションは実施できず、国際交流会館の生活オリエンテーションも簡略化（効率化）されて、書面とビデオのみとなった。留学生支援調査も 2 回実施に戻したが、その分析および対応は不十分である。また、改組問題に時間が大幅にとられ、所属や学生指導体制の変化の議論の中で、専門教育教員との協議会も開催することができなかった。

以上の活動状況を踏まえ、平成 22 年度以降に実施すべき事業展開は以下のとおりである。しかし、国際センターとなり指導部門が事実上なくなったため、国際交流部門の職員で実施することは現実的に非常に難しいと思われる。

- 留学生指導に関係する教職員による集会（留学生相談協議会）を再開し、今後の留学生支援体制について議論を行い、意識と情報の共有化と向上を目指す。
- 関連部署と連携し、留学生むけの HP を抜本的に改善し、それを元にキャンパス・ライフガイドブックの改訂版の発行を行う。
- 留学生の就職支援を推進すべく、学内外の情報収集を行い、留学生に情報を広める。具体的には、卒業後日本で就職することに成功し、活躍している元広島大学留学生を招き、講演会を開くとともに、留学生のキャリア教育を行う。
- 国際交流会を開催し、留学生、日本人学生、教職員の間での情報交換を行い、学生らによる自主的な活動ができるよう、基盤作りを行う。

教育交流部門 広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム活動報告

堀田泰司・恒松直美

（広島大学留学生センター 教育交流部門）

沿革

1993年に開催された日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange：通称カルコン CULCON)において、日米間の学生交流の促進が謳われ、日米双方の関係者が尽力した結果、1996年までに8国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学（以下HUSA）プログラムは、その8国立大学の1つとして、1996年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。本学の短期交換留学プログラムは、米国との学生交流だけでなく、世界中の協定大学との交流を促進し、派遣留学だけでなく、様々な文化・価値観を持つ留学生を受入れることにより、本学の在籍学生に異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際感覚を身に付けてもらうことを目指している。そのため、世界中の留学生が本学で学べるように英語による特別科目を留学生のために開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。また、大学院生の受入れに関しても、各学部の研究室が受け入れを行っている。さらに、国際協力研究科では、様々な開発分野が短期交換留学生にも門戸を開いている。

派遣留学の促進にも力を入れ、学生交流のためのコンソーシアムである INU(International Network of Universities)を活用し、アメリカとオーストラリアの教授によるオンラインビデオ講義を含む、本学学生の留学のための国際教養科目を開設している。2001年よりこうした交換留学事業がより効率的、且つ効果的におこなわれるよう UMAP (University Mobility in Asia and Pacific)事業が提唱する UCTS (UMAP Credit Transfer Scheme) を採用し、全協定大学に対する教育プログラムの透明性と互換性を高めている。現在は、UMAP が新たに開発した USCO (UMAP Student Connection Online)事業にも積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。HUSA プログラムは、プログラムの開始当初から全学組織である短期留学交流プログラム部会によって統括されている。部会は合計 16 名の各学部代表委員並びにその他委員により構成されており、プログラムの全学的運営と全学的利益の還元を保証している。但し、実務的な管理運営にあたっては、留学生センターの教育交流部門の教員 2 名及び学術室の留学交流グループ職員がその主たる業務を担っている。

I. 受け入れプログラムの概要

- ・ 受け入れ期間：一学期または一学年
- ・ 募集人員：40名

- ・ 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- ・ 応募資格：
 - （１） 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
 - （２） 原則として自国の大学の正規課程３年次の学部学生（協定校によっては、院生も含む）
 - （３） 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
 - （４） 非英語圏から応募する学生にあつては英語又は日本語による授業を履修するのに必要な英語力を持つ者
- ・ 選考方法：短期留学交流プログラム部会において、協定大学の推薦と UMAP 学習計画書を参考にしながら、書類をもって選考する。
- ・ 学生の身分と受け入れ方法：学生は、留学生センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別聴講学生」または「特別研究学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- ・ 授業料等の不徴収：交流協定に基づき、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定の中で「相互不徴収」について合意する必要がある）。
- ・ カリキュラム：授業科目は、３つの形態から構成されている。「特設科目」は、HUSA プログラムの学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語を交えて授業にするという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第３に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、留学生センターが実施している日本語・日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。また、授業科目は各学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2008-2009 年度に開設された授業科目一覧表である。

2009-2010 度（2009 年 10 月～2010 年 7 月）授業科目一覧

[2009 度秋学期]

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Introduction to Applied Molecular and Cellular Biology	2 単位	生物生産学部
Japanese Economy	2 単位	経済学部
Theory and Practice of Somaesthetics	2 単位	教育学部
Art Education and Globalization	2 単位	教育学部
Family Life in Japan	2 単位	教育学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	教育学部
The Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部
Introduction to Radiation in the Environment	2 単位	工学部

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
異文化コミュニケーション論入門	2 単位	総合科学部
歴史風景解析学(A)	2 単位	文学部
英語ディベート演習	2 単位	総合科学部
中期英語演習	2 単位	文学部
音声学・音韻論入門	2 単位	総合科学部
口腔の科学:食生活と全身の健康	2 単位	総合科学部
日本社会と生活様式B	2 単位	総合科学部
平和とは何か	2 単位	総合科学部
英文学演習	2 単位	文学部
言語心理学実験	2 単位	総合科学部
人体構造 3	0 単位	医学部

(「人体構造 3」は聴講のみ、霞キャンパスで実施)

[2010 度春学期]

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
HUSA Internship I :Career Theory and Practice	2 単位	教育学部
HUSA Internship II :Practicum	2 単位	教育学部
Development Macroeconomics	2 単位	経済学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部

Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Peace and Human Rights	2 単位	教育学部
Development and International Education	2 単位	教育学部
Frontiers of Material Science	2 単位	総合科学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Introduction to Plant Production Science	2 単位	生物生産学部

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
日本の政治と対外関係	2 単位	法学部
現代国際法演習	2 単位	総合科学部
日本社会と生活様式	2 単位	総合科学部
言語の比較と対照研究	2 単位	教育学部
社会医学・国際協力論・医学統計学	2 単位	医学部
心理言語学	2 単位	文学部
What is Religion?	2 単位	総合科学部
英文法	2 単位	文学部
言語学入門	2 単位	総合科学部
細胞生物学	2 単位	医学部
地球科学野外巡検A	1 単位	理学部
水循環論入門	2 単位	総合科学部
INU 特別協力講義 B:「アメリカの文化と社会」	2 単位	総合科学部
CMOS 論理回路設計	2 単位	工学部

日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級 IA	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 IB	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 IC	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 ID	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 IIA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級 IIB	2 単位	秋・春学期	留学生センター

日本語初級 IIC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語聴解特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語表現特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語古文特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (リスニング)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (映画)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (古典)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (語彙)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (表現)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (分析)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会・文化A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会と文化 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の思想・哲学A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本思想と哲学 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の映像文化史 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター

・受け入れ体制の整備：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎（日本人・留学生混在型）を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。(3) 日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。(5) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障（広島大学）とする。(6) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の単位互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

II. 2009-2010 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2009-2010 年度は、30 名の留学生を受け入れた（2008 年度 42 名）。期間は、殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており、男女別で見ると 2009-2010 年度 HUSA プログラムに参加した学生数は、男子学生 17 名、女子学生 13 名であった。

III. 2009-2010 年度 HUSA プログラム受け入れに関する業務及び活動内容

申請と選考：2009 年度募集要項は、2009 年 1 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に、本学の選考委員会によって HUSA 参加者が正式決定された。今年度も受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書も申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料として利用した。2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録を受け付け始めたが、2009 年度もオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。システムも毎年整備され、より効率的な形でオンライン登録ができた。HUSA 受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成及び管理にオンライン登録を活用していきたい。

渡日前の情報の提供：渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き (Information for New Students)」を改訂して各学生に送付した。また、ホームページによって HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し留学生がよく疑問に思う事項について説明した。さらに、2003 年度 HUSA プログラムより開講しているインターンシップ・コースについての情報も掲載した。それらに加え、学生の個人的な質問等には、電子メールやファックスを活用し、直接個々のケースに対応した。

チューターオリエンテーション：日本人学生チューターに対し、今年度も事前に 2 回の説明会を行った。第 1 回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第 2 回目は、留学生が来日する直前に、渡日後 1 週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

見学・体験学習：2009 年度春学期には、4 月に花見会を開催し、日本人学生と交流の機会を持った。また、7 月には書道セミナーを開き、留学生が日本の書道を体験する機会を持った。2009 年度秋学期には、毎年のように 10 月に、西条酒祭り見学、呉市吉浦秋大祭見学、11 月に、文

化交流のための学校訪問、地域学校との国際交流会など文化体験学習の機会を提供してきた。

授業科目の開設状況：短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度は、Special Course 及び Integrated Course (2009 年度春学期 27 科目、2009 年度秋学期 19 科目)、日本語教育 (2009 年度春学期 17 科目、2009 年度秋学期 20 科目) が短期交換留学生のために開講された。日本語教育科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003 年度から初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生そして研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

2003 年度より春学期にインターンシップ・コースを開設し、2003～2009 年度毎年インターンとして派遣している。2005 年度より、インターンシップ派遣前に事前研修を行い、インターンシップに備えているが、研修を毎年より強化し、社会人のマナーを身につける訓練を行っている。また、本年度は、企業での体験について企業体験者を招聘しセミナーを開き、学生への指導内容を充実させた。インターンシップ開始前には、広島経済同友会広島中央支部国際委員会及び受け入れ企業の関係者との会議及び懇親会に担当教員及びインターンの学生が出席し親交を深めた。地域との連携の中で大学の国際化を促進し、留学生のキャリア教育及び日本での就業体験をさらに充実したものにしていきたい。

文化交流支援活動：

- 9 月に来日した際に行う HUSA プログラム・オリエンテーションは 2006 年度より 2 日間に亘って行っており、本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や、HUSA プログラム参加留学生間の交流及び広島大学学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み、学生間の交流を促進し、本学での生活に早く慣れるよう機会を提供した。
- 当留学生センターの指導部門による国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期留学生に紹介する会合を開き、交流を促進した。また、日本人チューターを、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生をチューターとして採用した。

地域貢献：2003 年度より、東広島商工会議所から、国際理解のための留学生の母国についての講話を依頼されている。2003 年度はフランス・韓国、2004 年度はアメリカ・カナダ・ギリシャ、2005 年度にはドイツ、2006 年度にはタイからの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話した。また、HUSA 留学生が、地域の小学校・中学校・高校を訪れ、国際交流を行った。

HUSA 広報活動: HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップ、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、すべてが網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。

HUSA プログラム評価: プログラム改善の参考とするため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立てている。

IV. 2009-2010 年度 HUSA プログラム派遣留学活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も1月初旬に応募者の選考試験を行い、1月中には短期留学交流プログラム部会で選考、2～5月に受け入れ大学へ推薦という日程で選考・推薦を行っている。以下は、派遣学生の募集と選考に関する要旨である。

1. 制度の趣旨:

短期交換留学プログラムは、学部生・大学院生が短期学生交流協定等に基づいて母国の大学に在籍しつつ、学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、派遣先の大学において概ね1学年以内の1学期又は複数学期間教育を受けて単位を取得し、研究指導を受ける制度である。平成8年度後期から開始された。アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、シンガポール、中国、韓国、ロシア、ポーランド、オーストリア、ドイツ、フランス、オランダ、スウェーデン、イギリス等の大学から主として学部学生を短期交換留学生として招致し、本学の学部学生を各国各協定大学に派遣するという相互交流事業である。この交流事業は、派遣先大学において授業料不徴収にて授業を受講し、単位互換を促進することを目的としており、例年、以下の条件で募集を実施している。独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）及び広島大学短期留学交流プログラム部会が審査し、選考を行っている。

2. 特徴:

- ・ 授業料不徴収
- ・ 単位互換制度
- ・ 現地コーディネーターのアシスタント
- ・ 短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流

3. 出願書類

①派遣申請書

②留学計画書

③外国語検定試験の成績表

(英語、中国語、ドイツ語、フランス語の検定試験については、それぞれの検定試験に一定の基準を設け評価している)

④学業成績証明書

4. 出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係へ例年 11 月末までに提出する。

5. 面接（口述）試験

学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年 1 月の第 1 週に面接試験を行っている。試験は、広島大学短期留学交流プログラム部会の委員による 1 グループ 3 名程度の審査員によって実施され、審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ 5 段階評価をつけ、その平均点が最終審査会の 1 つの評価指標として使用される。

6. 選考委員会の実施

例年 1 月下旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。主に学生の留学志望校、語学能力、面接試験結果、学業成績を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮しながら選考及び推薦を行っている。

VI. 2009-2010 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2009 年度の短期交換留学生派遣に関しては、23 名を推薦し、アメリカ、カナダ、韓国、スウェーデン、スペイン、中国、ドイツ、フィンランドの 16 大学へ派遣した。また、2010 年 1 月には、2010-2011 年度派遣留学生の選考が行われ、すでにアメリカ、イギリス、オーストラリア、オランダ、カナダ、タイ、中国、ドイツ、フランスの 15 大学へ 18 名の学生派遣が決定している。

VII. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

広報活動：21 年度は、5 月に 3 回にわたる説明会を開催した。説明会には、毎回 50 - 60 名の参加者が出席した。また、派遣留学のための協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について事務局と連携を取り HUSA ガイドブックを再編し、派遣学生へ配布すると同時に

HUSA ホームページでも閲覧できるようにした。

留学前の情報提供と留学計画の促進：例年、派遣が決定した本学の学生に対し2度に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員並びに学部との単位互換について確認する目的で、UMAP 学習計画書を5月の第1回目のオリエンテーションで配布し、留学前までに、提出するよう要求している。

INU 特別協力講義：派遣留学を促進するためにすでに3年間開講してきた INU 特別協力講義 A と B を今年度も開設した。INU 特別協力講義は、一般の教養科目として開講されているが、INU ネットワークを利用し、アメリカとオーストラリアの協定大学の教員によるビデオ講義を活用した WebCT 上で授業を展開するオンライン教育科目である。教育交流部門の教員がそのうちの1科目を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に、授業を展開した。

VIII. 主なその他の活動

UMAP 活動への貢献：本学の教育交流部門は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されている UMAP (アジア太平洋学生交流機構) の学生交流促進事業にこれまでも積極的に参加してきた。21 年度は、UMAP 国際事務局並びに理事会が開発した USCO (UMAP 学生交流オンラインシステム) プロジェクトのシステム開発のアドバイザーとして引き続きタイの UMAP 国際事務局を支援し、オンラインシステムの立ち上げに協力した。また、本学も USCO システムを利用した UMAP 学生交流活動にも参加し、ソノラ工科大学 (メキシコ) から留学生を1名受入れた。

海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

[2009 年]

- | | |
|----|--|
| 5月 | * University of Maryland (アメリカ), Asian American Studies Program Director, Program Coordinator 表敬訪問 |
| 6月 | * University of Maryland (アメリカ) からの訪問学生のためのセミナー及び懇親会開催 |
| 8月 | * University Jyvaskyla (フィンランド) より表敬訪問 |

- 9月
- * National Science and Technology Development Agency, International Cooperation Division (タイ) より表敬訪問
 - * UNITARアジア太平洋地域広島事務所主催『Sea and Human Security』研修コースにて「Japanese Cultural Briefing」の題目で講義(堀田)
 - * INU特別協力講義の授業形式に関し、日本外国語教育協会広島部会主催、JALT-Hiroshima ワークショップ『Learning English through e-Learning』にて「Introduction of INU Special Course B “American Culture and Society”」と題し講演(堀田)
- 10月
- * USAC (University Studies Abroad Consortium)より表敬訪問
USACについてのプレゼンテーション・USAC派遣留学生との会合
 - * Vaxjo University (スウェーデン) より表敬訪問
 - * University of Manchester (イギリス) より表敬訪問
 - * ベトナム、ホーチミンで開催されたSEAMEOベトナム研修センター主催のSEAMEO-RETRAC国際フォーラム『Curriculum Leadership and Development in Higher Education: Best practices from Japan, Cambodia, Lao PDR, and Vietnam』にて「Importance of Student Mobility, Workload and Learning Outcomes for the Development of International Curriculum in Asia」と題し講演(堀田)
- 12月
- * Saint Mary's University (カナダ) 国際部より表敬訪問
 - * Cardiff University (イギリス) より表敬訪問
 - * 愛媛大学国際交流ワークショップ「UMAPと国際交流のための新戦略」にて、「21世紀のアジア高等教育における学生交流の重要性：UCTS(UMAP単位互換制度)によるPermeability(透明性)の向上を目指して」並びに「欧州高等教育における学生交流事業(エラスムス)並びに高等教育改革(ボローニャ・プロセス)の経験：TUNINGプロジェクトを中心に」の題目で講演(堀田)

[2010年]

- 1月
- * USAC(University Studies Abroad Consortium)より表敬訪問

- 2月 * 台北駐大阪経済文化教育課長及び台北国際文化教育部科長の表敬訪問
- 3月 * 留学生教育学会・短期交換留学プログラム分科会での研究発表
研究発表題目「広島大学短期交換留学プログラム (HUSA) インターンシップの新しい展開」(恒松)

留学生センター教員研究・その他の活動業績

1. 研究論文・著書

- 浮田三郎 「比較言語文化論—諺の世界から—」『比較日本文化学研究』第3号(2010), 広島大学大学院文学研究科総合人間学講座, 2010年2月, pp.165-173
- 浮田三郎・銭清 「日本語と中国語の諺に見る貧の原因」『比較文化研究』(91), 日本比較文化学会, 2010年3月, pp.183-196
- 銭清・浮田三郎 「日本語と中国語における『金銭』に関する諺対照比較研究3」『ニダバ』第39号, 西日本言語学会, 2010年3月, pp.126-135
- 田村泰男 「人を表す名詞を派生する造語成分について」『広島大学留学生センター紀要』第20号, 2010年, pp.11-21
- 多和田眞一郎 『沖縄語史研究 {資料}』(B5版), 広島大学留学生センター, 2010年3月, 940pp.
- 恒松直美 「短期交換留学生向けインターンシップと日本人学生の参加—国際的視野からのキャリア教育—」『広島大学留学生センター紀要』第20号, 2010年, pp.23-39
- 恒松直美 「グローバル・シフトと大学教育のパラダイム—学生と教職員で作るスピリチュアル・キャピタル—」『広島大学留学生教育』第14号, 2010年, pp.45-58
- 中川正弘 「日本語における動詞連鎖構造と時間のヴィジョン」『広島大学留学生教育』第14号, 2010年, pp.59-78
- 中矢礼美 「多文化共生にむけた教育政策の現状と課題」『日中における教育学研究の最前線』, 広島大学大学院教育学研究科北京師範大学教育学院共同シンポジウム報告書, 2009年10月
- 中矢礼美 「トランスナショナルエデュケーション—インドネシアの事例」『トランスナショナルエデュケーションの国際比較研究 中間報告』(基盤研究(B)20330172), pp.132-140
- 中矢礼美 「平成21年度グローバルに活躍できる「広島っ子」育成事業 国際交流体験プロジェクト 事業報告書」広島県教育委員会, 2010年3月

深見兼孝 『『アトデ』と『アトニ』』『広島大学留学生センター紀要』 第 20 号, 2010 年, pp.1-10

堀田泰司 「ボローニャ宣言にみるエラスムスの経験の意義」『大学論集』第 41 集, 2010 年 3 月, pp. 305-322

2. 学会発表

中矢礼美 「平和な文化を創るための学校教育カリキュラム—インドネシア・アンボンにおける地域科を中心とした平和教育カリキュラムの提案」, 第 45 回日本比較教育学会, 東京学芸大学, 2009 年 6 月 27 日

中矢礼美 「インドネシアの学校教育における「平和教育」の可能性と課題—アンボンにおける平和教育カリキュラム開発の模索—」, アジア教育学会, 専修大学, 2009 年 11 月 3 日

Do Hoang Ngan・深見兼孝 「日本語聴解の困難点・聞き取れない原因及び聴解ストラテジー使用に関する学習者の認識とその相関関係について:ベトナム人現役大学生の場合」, 韓国日本語学会第 20 回国際学術発表会, 建国大学 (韓国), 2009 年 9 月 19 日

深見兼孝 「現代日本語のヨコニナルとヨコタワルについて」, 日本総合学術学会 2009 年度春季大会, 広島大学 (東千田キャンパス), 2009 年 5 月 23 日

堀田泰司 「エラスムス (ERASMUS) からボローニャ・プロセス (Bologna Process) へ: 政策分析から見える学生交流の重要性」第 45 回日本比較教育学会, 学芸大学, 2009 年 6 月 28 日

堀田泰司 “Importance of Permeability with ECTS/UCTS/ACTS, and Learning Outcomes for the Internationalization of Higher Education in Asia and Pacific,” the 5th QS-APPLE Conference 2009, Kuala Lumpur, Malaysia, 2009 年 11 月 25 日

3. 学術研究補助金

恒松直美 研究代表者 (平成 21-23 年度) 科学研究費補助金基盤研究 (C) 「グローバル社会におけるパラダイム・シフト: 日本の高等教育とキャリアにおける意識変容」

中矢礼美 研究代表者 (平成 21-23 年度) 科学研究費補助金基盤研究若手 (B) 「平和構築コンピテンシーに関する国際比較研究」

中矢礼美, 研究分担者 (平成 20 年—22 年度) 科学研究費補助金基盤研究 (B) 「トランスナショナル・エデュケーションに関する総合的国際研究 (研究代表者: 杉本均)」

堀田泰司 研究代表者 (平成 21-23 年度) 科学研究費補助金基盤研究 (B) (海外学術調査) 「欧州高等教育改革が及ぼす欧州域内外の高等教育プログラムへの影響に関する研究」

堀田泰司 研究代表者 (平成 22 年 2 月 1 日～3 月 31 日) 平成 21 年度文部科学省・先導的 University 改革推進委託事業「ACTS (ASEAN Credit Transfer System) と各国の単位互換に関する調査研究」

4. その他の活動

A. 地域貢献, 社会貢献

浮田三郎 財団法人石田教育振興財団評議員
多和田眞一郎 「キワニス留学生奨学金日本語作文」審査委員長
恒松直美 日本総合学術学会, 監事
中矢礼美 広島市市民局指定管理者候補選定委員会委員
堀田泰司 日本 UMAP 国内委員会, 専門委員
堀田泰司 UMAP 国際事務局 (タイ, バンコク), 技術アドバイザー

B. 学会活動

浮田三郎 日本ギリシア語ギリシア文学会会長
浮田三郎 言語文化教育学会理事
浮田三郎 西日本言語学会 運営委員
多和田眞一郎 日本総合学術学会会長
多和田眞一郎 韓国日本文化学会海外理事
多和田眞一郎 大韓日語日文学会海外理事
多和田眞一郎 韓国学研究会副会長
中川正弘 日本フランス文学フランス語学会中国・四国支部機関誌編集委員
中川正弘 広島大学フランス文学研究会, 参与
中矢礼美 日本比較教育学会事務局幹事
中矢礼美 『国際教育協力論集』編集委員

中矢礼美	The ASIA-PASIFIC EDUCATION RESEARCHER(De La Salle University)編集委員
中矢礼美	COISAN（国立大学法人留学生指導研究協議会）監事
深見兼孝	西日本言語学会運営委員
深見兼孝	日本総合学術学会理事
深見兼孝	韓国学研究会理事

C. 講演・ワークショップ等

浮田三郎 講演「比較言語文化論」於 台湾国立第一科技大学 2009年5月7日

浮田三郎 公開講座「現代ギリシアのことばと文化(6)」, 広島大学, 2009年6月1日, 6月8日, 6月15日, 6月22日, 6月29日(計5回)

中矢礼美 「グローバルリテラシーの育成をめざして」広島県高等教育研究大会, 広島市 2009年11月21日

中矢礼美 「多文化共生社会の創造に向けて」(広島県教育委員会主催「グローバルに活躍できる広島っ子育成事業」広島県賀茂北高等学校, 2009年12月2日

中矢礼美 「留学生支援を通じた学内連携と教職員の国際化の課題」平成21年度第二回国立大学法人留学生指導研究協議会「留学生30万人計画」: 大学における課題と展望), 大阪大学, 2010年2月4日

堀田泰司 「Japanese Cultural Briefing」『Sea and Human Security』研修コース, UNITAR アジア太平洋地域広島事務所主催, 広島市, 2009年9月27日

堀田泰司 「Introduction of INU Special Course B “American Culture and Society”」 JALT-Hiroshima ワークショップ『Learning English through e-Learning』日本外国語教育協会広島部会主催, 広島市 2009年9月27日

堀田泰司 「Importance of Student Mobility, Workload and Learning Outcomes for the Development of International Curriculum in Asia」 SEAMEO-RETRAC 国際フォーラム『Curriculum Leadership and Development in Higher Education: Best practices from Japan, Cambodia, Lao PDR, and Vietnam』 SEAMEO ベトナム研修センター主催, ホーチミン (ベト

ナム) 2009年10月27日

堀田泰司 「21世紀のアジア高等教育における学生交流の重要性：UCTS(UMAP 単位互換制度)による Permeability (透明性)の向上を目指して」愛媛大学国際交流 ワークショップ「UMAPと国際交流のための新戦略」愛媛大学, 2009年12月4日

堀田泰司 「欧州高等教育における学生交流事業(エラスムス)並びに高等教育改革(ボローニャ・プロセス)の経験：TUNINGプロジェクトを中心に」愛媛大学国際交流ワークショップ「UMAPと国際交流のための新戦略」愛媛大学, 2009年12月4日